BOSE®

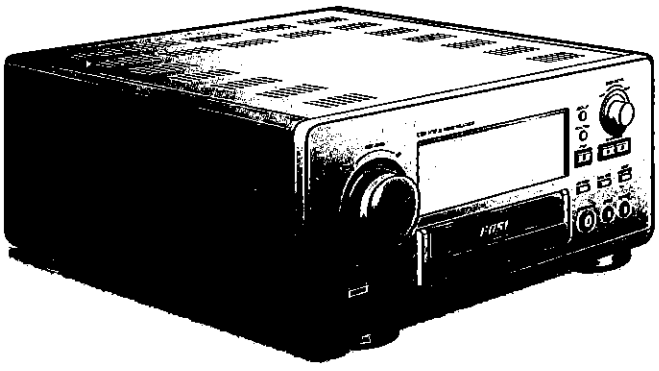
OWNER'S MANUAL

CDリライタブルデッキ

CDR-1410

この度はCDR-1410をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管されることをおすすめいたします。

CDR-1410取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

目次

安全上の留意項目……2
開梱時のご注意……4
設置上の注意……4
接続……5
リモコンの使い方……6
リモコンの使用方法……7
CD／CD-R／CD-RWの取り扱いについて……8
再生……10
好きな曲を選ぶには……12
リピート(繰り返し)再生……13
Shuffle(シャッフル／順不同)再生……14
プログラム再生……15
録音の前に……17
シリアルコピーマネージメントシステムについて…17
CDを簡単にコピーするには……18
録音のための設定……20
録音するとき便利な機能……22
録音……24
消去(CD-RWのみ)……28
ファイナライズとアンファイナライズ……30
表示部の表示……32
スリープタイマー……33
各部の名称および機能(前面)……34
各部の名称および機能(背面)……36
メッセージ一覧……37
故障かな?と思ったら……38
お手入れについて……39
仕様……39
故障の場合のお問い合せ先……裏表紙
保証……裏表紙

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は行為を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

⚠ 警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先
(社)私的録音補償金管理協会　TEL 03-5353-0336　FAX 03-5353-0337

⚠警告		通風孔のある機器のみ ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
		●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の周隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。
		●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
	 分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
		●電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。 ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ ●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（ワット／容量）数を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

⚠注意		●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
		●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。 電池を使用する機器のみ ●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス+とマイナス-の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
		●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
		●約5年に一度は機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。 ●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。 ※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
		●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
		●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
		●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
		●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

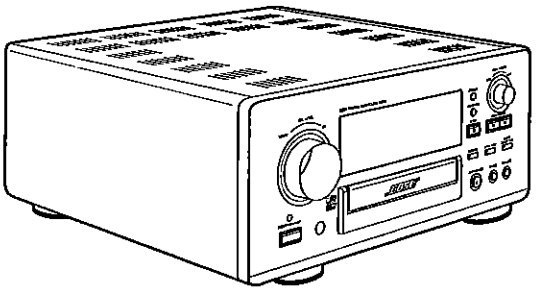
音のエチケット

・音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。近隣に迷惑をかけないよう適当な音量を心がけ、お互いに快適な生活環境を守りましょう。

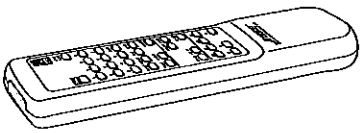
開梱時のご注意

付属品を確認してください

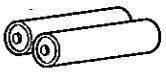
もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。



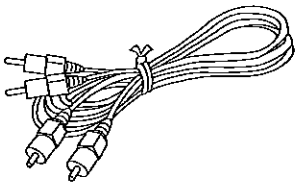
本体(CDR-1410)1台



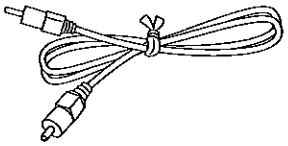
リモコン(RRC-1410)1個



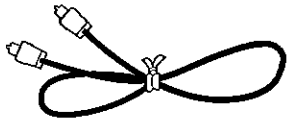
リモコン用乾電池(単3型)2本
(チェック用)



オーディオピンケーブル2本

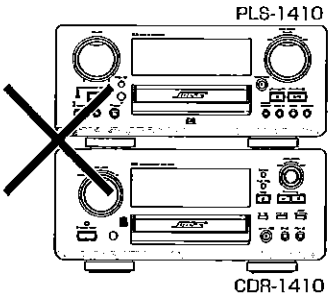


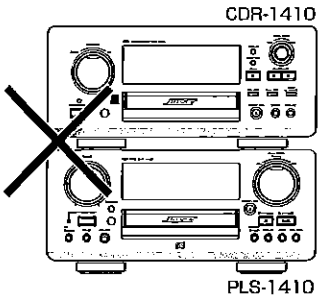
リモートコントロールケーブル1本

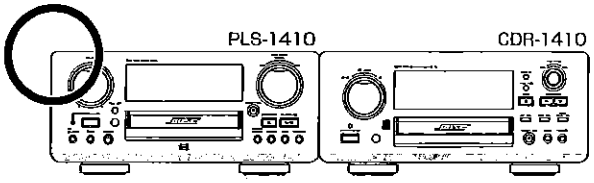


光デジタルケーブル1本

設置上の注意







⚠設置の注意

本機の動作保証温度は5℃～35℃です。
CDリライタブルデッキは、一般のCDプレーヤーよりも熱に敏感ですので、設置の際は以下の点にご注意ください。

・放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。

・パワーアンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。

接　続

⚠ 接続時の注意

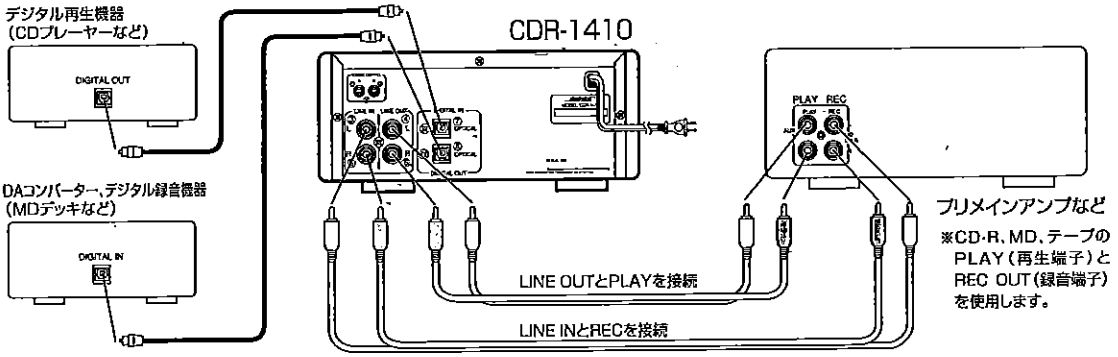
全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

⚠ 注意

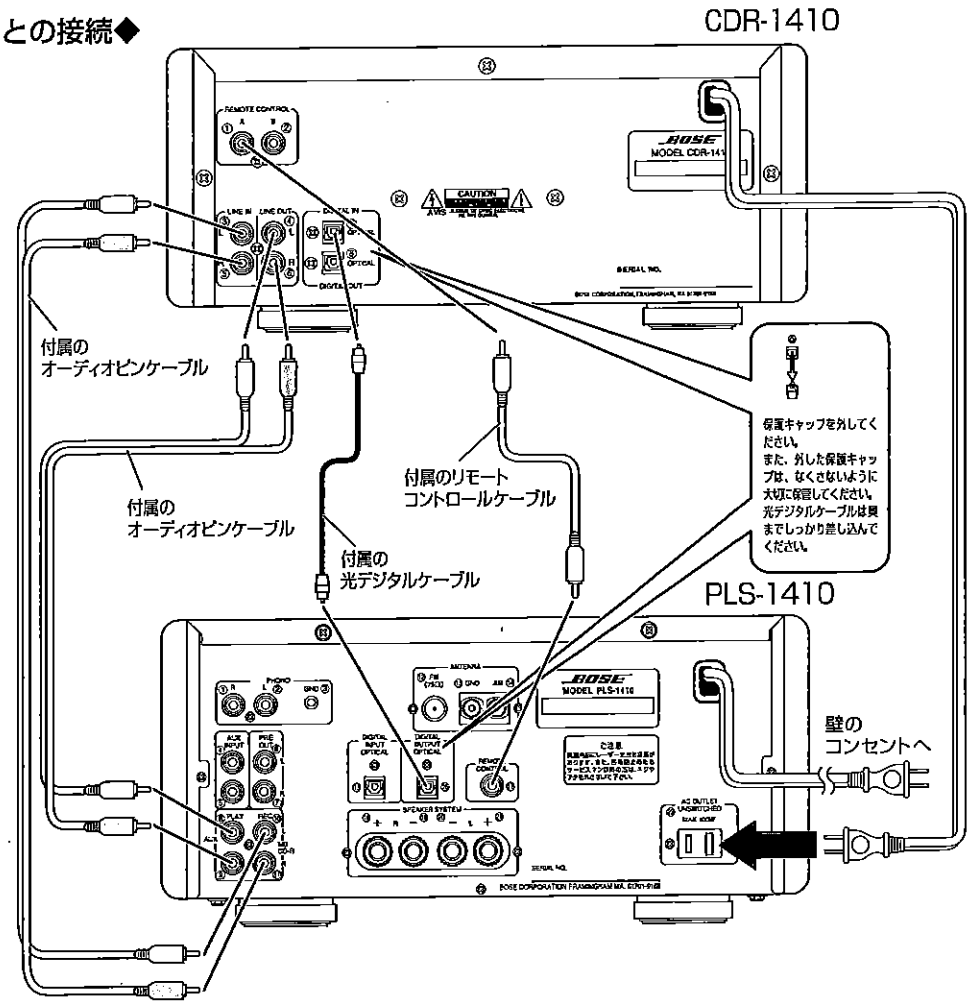
交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。また、電源の抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。

※オーディオピンケーブルはしっかりと差し込んでください。また、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因になります。

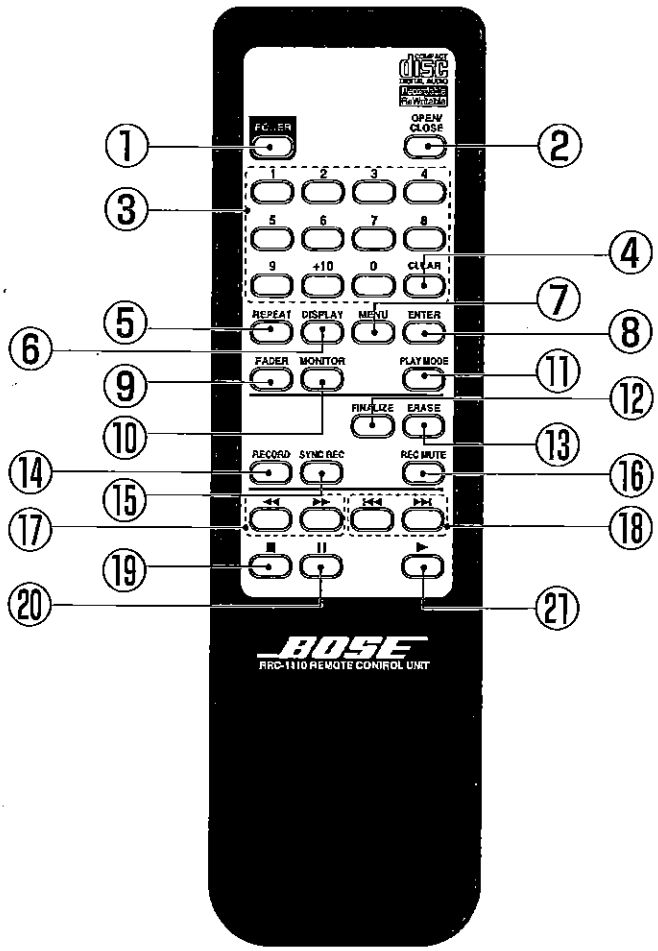
◆外部のオーディオ機器との接続◆



◆ボーズ社PLS-1410との接続◆



リモコンの使い方



① POWER(パワー) キー
電源のオフ(スタンバイ)/オンを切り替えます。

② OPEN/CLOSE(オープン/クローズ)キー
CDトレーの出し入れをします。

③ 数字キー
演奏曲、またはプログラムする曲の曲番を指定するときに使用します。例えば3曲目を指定するときは、〈3〉を押します。12曲目の場合は、〈+10〉を一度押した後〈2〉を押します。

④ CLEAR(クリア)キー
プログラムした曲を削除するときに使用します。このキーを押すと、最後にプログラムした曲番を削除します。

⑤ REPEAT(リピート)キー
同じ曲を繰り返し再生するときに使用します。

⑥ DISPLAY(ディスプレイ/表示)キー
表示部の時間表示を切り替えるときに使用します。

⑦ MENU(メニュー)キー
このキーを押して設定項目を選びます。
オートトラック→サウンドレベル→フェードイン→フェードアウト→スリープタイマーの項目を切り替えるときに使用します。本体のFUNCTIONキーと同じ働きをします。

⑧ ENTER(エンター)キー
設定内容を確定するときに使用します。
本体のジョグダイヤルを押したときと同じ働きをします。

⑨ FADER(フェード)キー
録音時にフェードイン、フェードアウトするときに使用します。

⑩ MONITOR(モニター)キー
停止中にこのキーを押すと、録音するソースをモニターすることができます。

⑪ PLAY MODE(プレイモード)キー
このキーを押すたびに再生のモードが変わります。

⑫ FINALIZE(ファイナライズ)キー
CD-R/RWをCDプレーヤーで再生できるようにする(ファイナライズ)ときに押します。
※CD-RWはファイナライズしてもCD-RW対応のCDプレーヤーでしか再生できません。

⑬ ERASE(イレース)キー
CD-RWのアンファイナライズ、消去をするときに押します。

⑭ RECORD(レコード)キー
録音するときや曲番を追加するときに押します。

⑮ SYNC REC(シンクレック)キー
外部からの入力にシンクロ(同期)させて録音するとき押します。

リモコンの使い方(つづき)

⑯ REC MUTE(レックミュート)キー
録音中にこのキーを押すと、無音録音状態になり約4秒後に、一時停止(録音待機)状態になります。PLAY(▶)キーまたはPAUSE(⏸)キーを押すと再び録音が始まります。

⑰ ◀◀/▶▶(サーチ)キー
再生中にこのキーを押すと、早戻し/早送りができます(12ページ参照)。

⑱ ⏮/⏭(スキップ)キー
本体のジョグダイヤルを回したときと同じ働きをします(12ページ参照)。

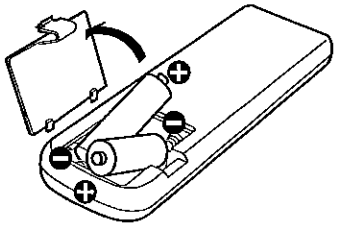
⑲ ■(ストップ)キー
CDの再生を停止したり、録音を停止するときに押します。

⑳ ⏸(ポーズ)キー
一時停止するときに押します。一時停止中にこのキーを押すと、再生または録音を開始します。

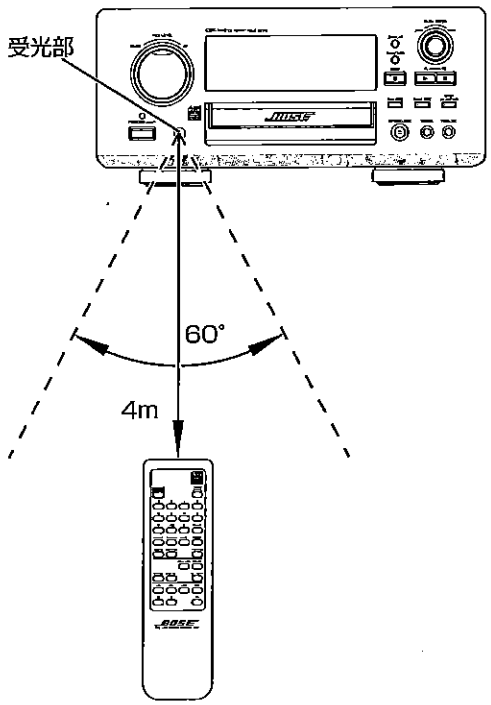
㉑ ▶(プレイ)キー
再生、録音を開始するときに押します。

リモコンの使用方法

電池の入れ方
ケースの⊕と⊖表示に合わせて乾電池(単3型)2本を入れてください。



リモコンの動作範囲



⚠ 電池についてのご注意
- ●乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- ●新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ●乾電池は絶対に充電しないでください。
- ●長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- ●液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

⚠ 使用上の注意
- ●本機の受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- ●本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- ●リモコンと本機受光部の間に障害があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。

電池交換の時期は…
※付属の電池は動作チェック用です。必ず新しい電池をご用意ください。

リモコンの電池が消耗するとリモコンの動作範囲が狭まってきて、効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたら、リモコンの電池を2本とも新しい電池に交換してください。

CD／CD-R／CD-RWの取り扱いについて

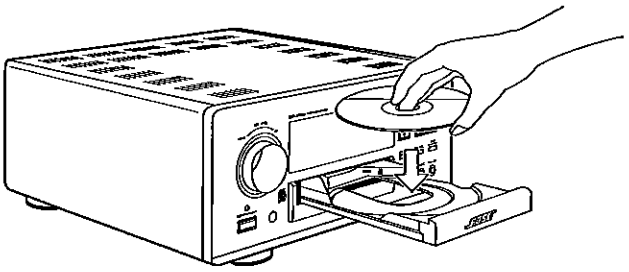
結露現象について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ(ピックアップのレンズ部分)に露が生じ(結露)、レーザーによるCDからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

ディスクの取り扱いについて

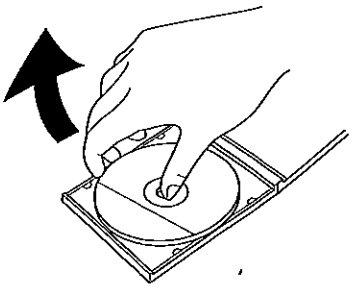
ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください(CDの演奏は片面だけです)。

※CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。



七色に輝く面が表面です。レーベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、コンパクトディスクプレーヤーは、レーザー光線のピックアップでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがって従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

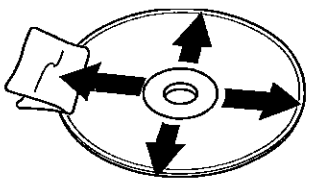
ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。



ディスクを持つ場合には、演奏面(ラベルの印刷していない面)に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

ディスクの表面はいつもきれいに

CDの表面には最大約60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずCD専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。



※コンパクトディスクは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、コンパクトディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

CD保管上の注意

CDはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

- 直射日光の当たる場所。
- 暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- 車の中などの高温になる場所。
- 投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- 極端に寒い場所。
- 湿気や水分のある場所。プール、浴室などの湿気の多い場所。
- 屋外や直接水のかかるところ。

CD／CD-R／CD-RWの取り扱いについて(つづき)

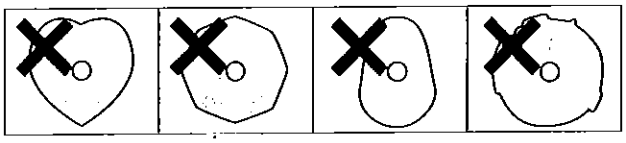
・レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。

・再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。

・ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのままCDプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

・市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。

・ハート型や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



⚠注意

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがや故障の原因となることがあります。

CD-RとCD-RW

CD-Rディスクには一度だけしか録音できません。録音した曲を消去することもできません。ただし、ディスクの録音可能時間が残っている場合は、ファイナライズ(30ページ参照)する前なら追加録音することができます。録音が終わったCD-Rをファイナライズ（30ページ参照）すると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります)。

CD-RWディスクの場合は、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし消去できるのは、指定した曲から最後に録音した曲までです。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

ファイナライズ

TOC(録音したデータの情報)をディスクに記録することをファイナライズといいます。ファイナライズしたディスクには録音することはできません。ただしCD-RWの場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。
(TOC:Table Of Contents)

使用上の注意

以下のマークのあるコンパクトディスクをお使いください。

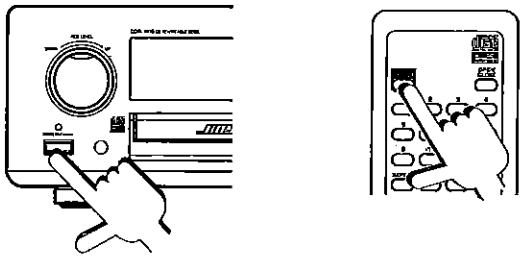
CD　CD-R　CD-RW

本機では、音楽用の **DIGITAL AUDIO** 表示のあるCD、CD-RおよびCD-RWしか使用できません。
(音楽用のCD-R/CD-RWの価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれています。)

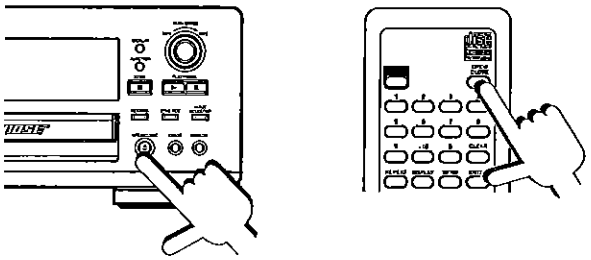
再　生

1. **電源を入れます。**
   POWER/STANDBY(パワースタンバイ)キーを押すとスタンバイインジケーターが消灯し、電源が入ります。

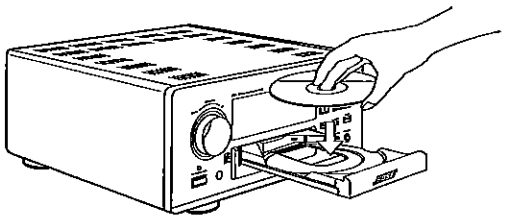
   ディスクがセットされていない場合は"Welcome!" "TOC Reading"のあと"NO DISC"と表示されます。



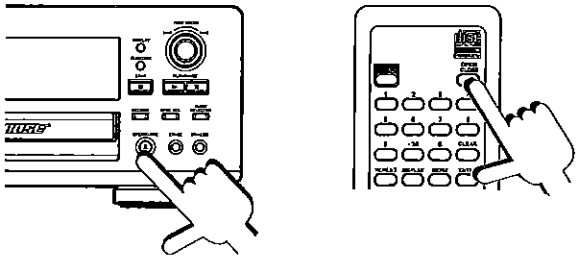
2. **OPEN/CLOSE（ ▲ ）キーを押します。**
   CDトレーが手前に出ます。



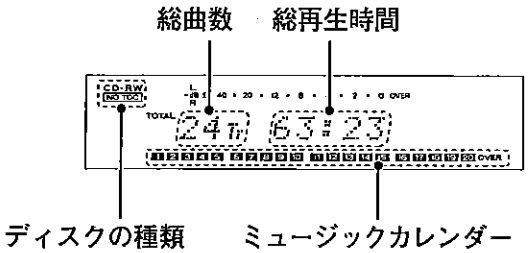
3. **ディスクのレーベル面を上にしてCDトレーにのせます。**



4. **OPEN/CLOSE（ ▲ ）キーを押します。**
   CDトレーが閉まります。



"TOC Reading"が表示されたあと、ディスクの種類、総曲数、総再生時間が表示されます。



ディスクの種類について

CD	CD-RW	CD-R NO TOC	CD-RW NO TOC
市販のCDおよびファイナライズ済みのCD-R	ファイナライズ済みのCD-RW	ファイナライズされていないCD-R	ファイナライズされていないCD-RW

・ミュージックカレンダーには20曲まで表示され、再生が終わった曲から消えていきます。

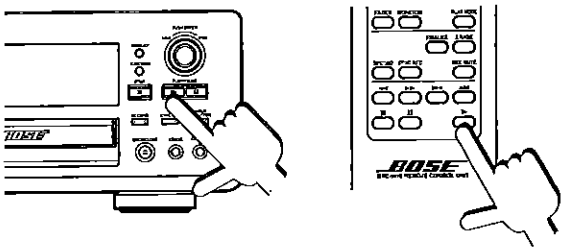
・ディスクの総曲数が20曲を越える場合は"OVER"が点灯します。

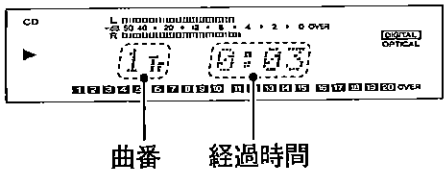
・シャッフル(順不同)再生モードになっている場合は"SHUFFLE"が点灯します。解除するには、リモコンのPLAY MODEキーを2回押して、通常の再生モードに戻してください。

再　生(つづき)

5. PLAY(▶)キーを押します。

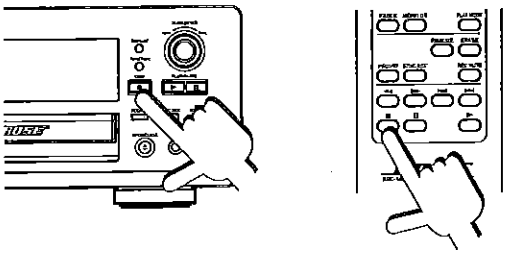
再生が始まります。





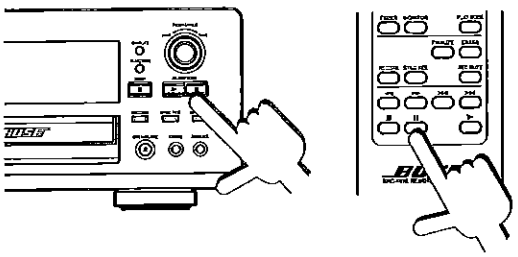
◆再生をやめるには◆

STOP(■)キーを押すと再生が停止します。



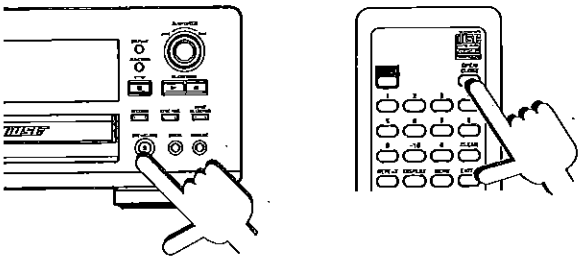
◆再生を一時停止するには◆

PAUSE(❚❚)キーを押すと再生が一時停止します。
PAUSE(❚❚)キーまたはPLAY (▶)キーを押すと再び再生が始まります。



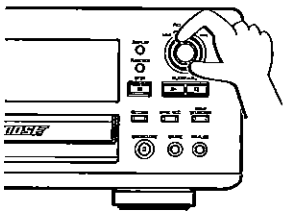
◆ディスクを取り出すには◆

OPEN/CLOSE(⏏)キーを押すと、再生が停止してCDトレーが開きます。



好きな曲を選ぶには

◆好きな曲から再生するには(スキップ)◆



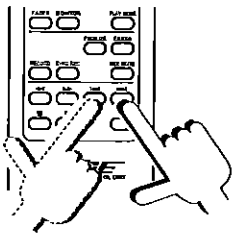
再生中にジョグダイヤル(⏮/⏭)を回すと、前または後ろの曲にスキップして再生を始めます。希望する曲番になるまで、続けて操作してください。

・停止中および一時停止中に操作すると、選んだ曲の頭で一時停止状態になります。PLAY(▶)キーを押すと再生が始まります。

・再生中は、⏮ の方向に一回カチッとなるまで回すと再生中の曲の頭に戻ります。それより前の曲を再生したいときは、ジョグダイヤルを続けて回してください。

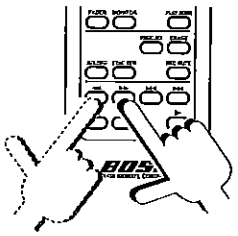
・プログラム再生中は、プログラムされた順番に前または後の曲にスキップします。

・最初の曲の停止中に ⏮ の方向に一回カチッとなるまで回すと最後の曲にスキップします。また、最後の曲の再生/停止中に ⏭ の方向に一回カチッとなるまで回すとCDの最初の曲に戻ります。



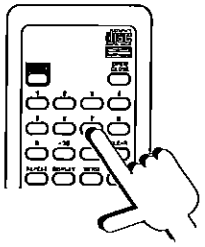
・リモコンの場合は⏮/⏭(スキップ)キーを押してください。

◆聴きたい曲を探すには(サーチ)◆



再生中にリモコンの ◀◀/▶▶ (サーチ)キーを押し続けると、早戻し/早送りができます。聴きたい部分が見つかったら指を離してください。
※リモコンでしかできません。

◆リモコンで再生したい曲を選ぶには◆



停止中または再生中にリモコンの数字キーで曲番を押すと、その曲から再生が始まります。

・一時停止中に操作すると、選んだ曲の頭で一時停止状態になります。

・シャッフル(順不同)再生モードでは操作できません。

・プログラム再生モードでは、数字キーは曲のプログラムに使用しますので選曲には使えません。

・"TOC Reading"の表示中にそのディスクに存在しない曲番を押すと、一番最後の曲が再生されます。

たとえば

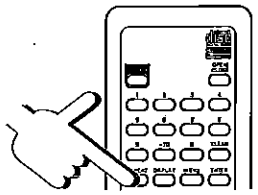
7曲目： 7

23曲目： +10 → +10 → 3

と押します。

リピート(繰り返し)再生

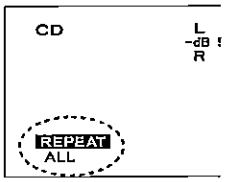
リモコンのREPEATキーを押すたびにリピートモードが変わります。



"Repeat ALL" → "Repeat 1" → "Repeat OFF"
(全曲リピート) (一曲リピート) (リピート解除)

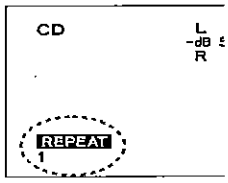
■全曲リピート [REPEAT ALL]

ディスク全ての曲を繰り返し再生します。プログラムモードでは、プログラムした曲が繰り返し再生されます。



■一曲リピート [REPEAT 1]

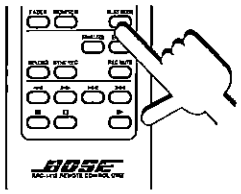
再生中にREPEATキーを押して "Repeat 1" を選ぶと、再生中の曲が繰り返し再生されます。一曲リピート再生中に他の曲を選ぶと、その曲の繰り返し再生に変わります。



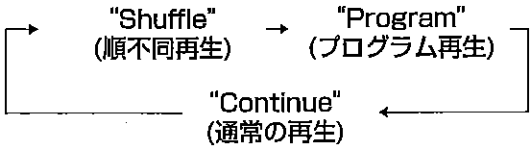
・停止中に一曲リピートに設定にしてから曲番を選んで再生すると、その曲が繰り返し再生されます。

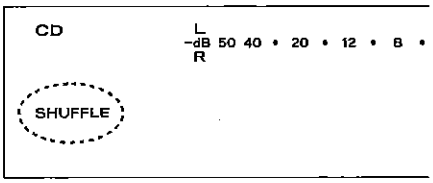
Shuffle(シャッフル／順不同)再生

シャッフル(順不同)再生モードで再生すると、ディスクの曲が順不同に再生されます。



リモコンのPLAY MODEキーを押すたびに再生モードが変わります。シャッフル(順不同)再生を選んでください。





・シャッフル(順不同)再生中にジョグダイヤルを▶▶|の方向に一回カチッというまで回すと、次の曲が無作為に選択されます。|◀◀ の方向に一回カチッというまで回すと、現在の曲の頭に戻ります。

・シャッフル(順不同)再生を中断したいときは、STOP(■)キーまたはOPEN/CLOSE(⏏)キーを押してください。

・シャッフル(順不同)再生モードを解除したいときは、PLAY MODEキーを2回押してください。また、電源プラグを抜くと解除されます。

※POWER/STANDBYキーを押して電源を切ってから、再度電源をONにした時はシャッフル(順不同)再生モードは解除されません。

プログラム再生

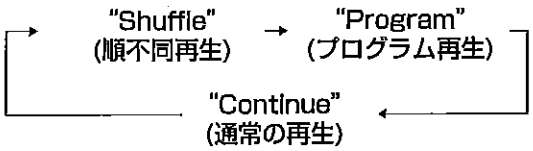
聴きたい曲を聴きたい順に、25曲までプログラムして再生することができます。

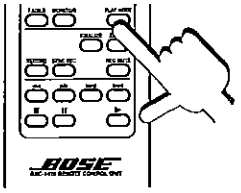
・停止中でも再生中でもプログラムできます。
※ただし、再生中は、リモコンでしかプログラムできません。

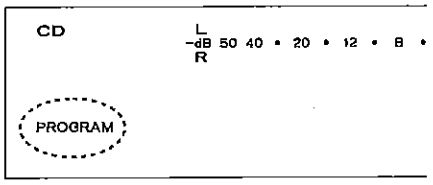
・プログラム再生中は、シャッフル再生はできません。

1. リモコンのPLAY MODEキーを押してプログラム再生モードにします。

リモコンのPLAY MODEキーを押すたびにモードが変わります。







プログラム再生モードにすると"PROGRAM"インジケーターが点灯します。

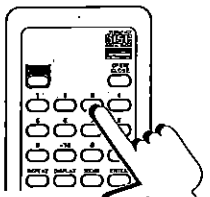
2. 曲番を選びます。

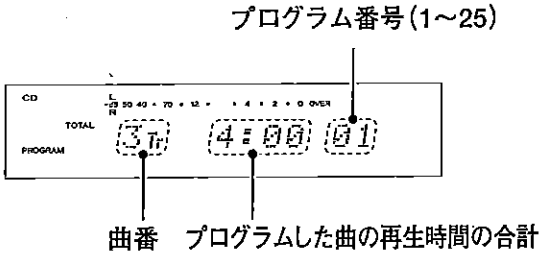
リモコンの数字キーで曲番を選んでください。

・再生中にプログラム再生モードにした場合は、そのとき再生していた曲が最初にプログラムされます。

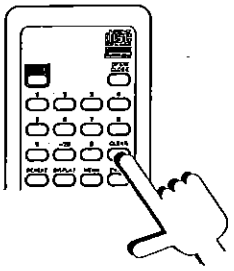
・停止中は、本体のジョグダイヤルでもプログラムできます。ジョグダイヤルを回して曲番を選んでから、ジョグダイヤルを押してください。ジョグダイヤルを押す前にSTOP(■)キーを押すと、その曲はプログラムされません。

※再生中は、ジョグダイヤルはスキップ選曲用として働きますのでプログラムには使用できません。リモコンをご使用ください。



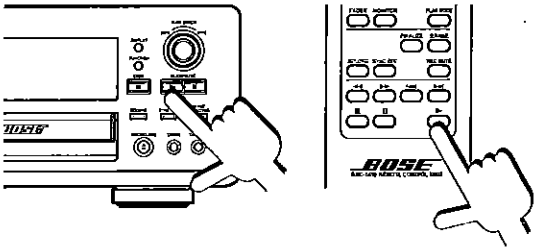


・間違えてプログラムした場合、CLEARキーを押すと最後にプログラムした曲から一曲ずつ削除できます。



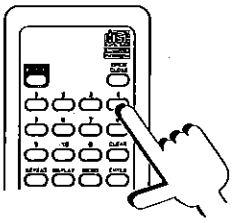
プログラム再生(つづき)

3. **停止中にプログラムした場合は、曲番を選び終わったらPLAY(►)キーを押します。**
   プログラム再生が始まります。



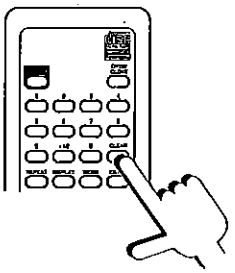
◆プログラムに曲を追加するには◆

リモコンの数字キーで希望の曲を選ぶと、プログラムの最後に曲が追加されます。



◆プログラムの一部を削除するには◆

CLEARキーを押すたびに、プログラムの最後の曲が削除されます。

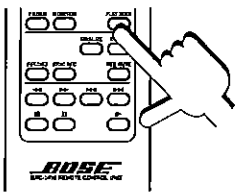


◆全てのプログラム内容の消去◆

PLAY MODEキーを押してプログラム再生モードを解除すると、全てのプログラム内容が消去されます。

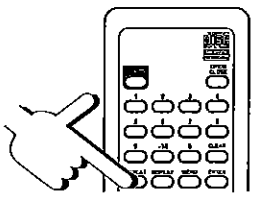
OPEN/CLOSE(▲)キーを押した場合、または停止中にSTOP(■)キーを押した場合は、プログラム再生モードは解除されませんが、プログラム内容は消去されます。

POWERキーを押すと、プログラム再生モードが解除されて、全てのプログラム内容も消去されます。



◆プログラムした曲をリピート再生するには◆

プログラムしたあと、REPEATキーを押して全曲リピートにすると、プログラムした曲が繰り返し再生されます。



- 25曲までプログラムできます。25曲をこえると"PGM Full !"が表示されます。
- プログラムした曲の再生時間の合計が100分以上になると"ーー:ーー"が表示されます。
- 1曲もプログラムされていない状態でPLAY(►)キーを押すと、プログラムモードを解除してディスクの1曲目から通常の再生が始まります。

録音の前に

・CDの規格により99曲までしか録音できません。
また、4秒以下の曲は録音できません。

・録音を開始してから4秒以内にSTOP(■)キーまたはPAUSE(❚❚)キーを押した場合は、4秒になってから停止します。その間は無音録音状態になります。

・録音の途中でディスクが99曲になった場合は、"Disc Full"と"PMA Writing"を表示したあと、停止します。

・録音の途中でディスクの録音可能時間が0になった場合は、フェードアウトしたあと"Disc Full"と"PMA Writing"を表示したあと、停止します。

・途中まで録音してあるディスクを入れた場合は、録音済みの部分の終わりから続けて録音されます。

・録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります(30ページ参照)。

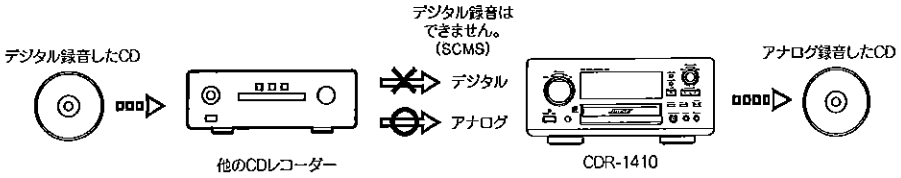
・ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、アンファイナライズしてください(31ページ参照)。

・シンクロ録音機能やオートトラック機能を使う場合、本機はサウンドレベルで設定したレベルに従って録音を開始し曲を区切ります。そのため、冒頭や曲間に無音部分のあるソースを録音すると、一曲あたりの長さ(再生時間)が一致しないことがあります。

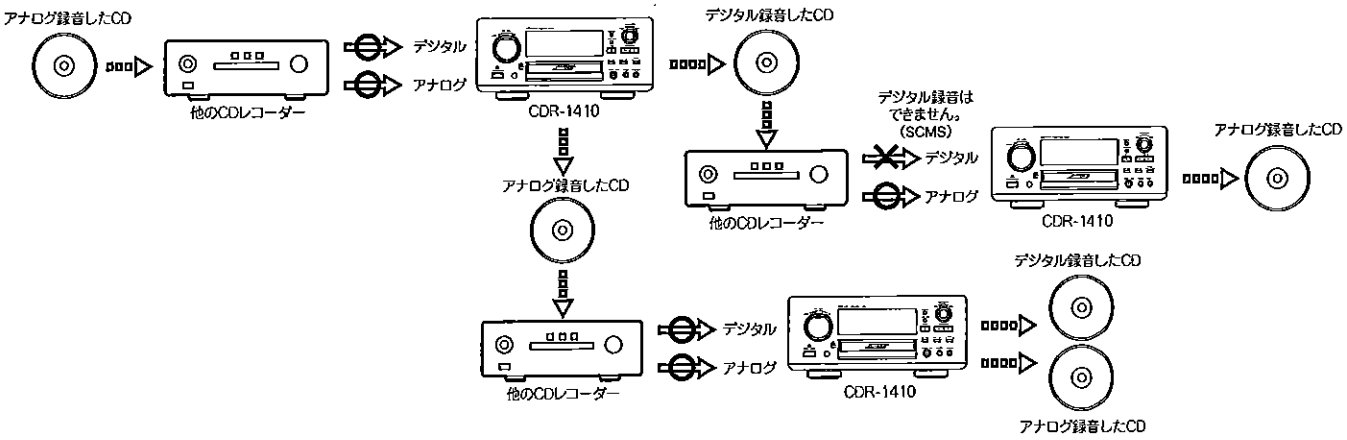
シリアルコピーマネージメントシステムについて

シリアルコピーマネージメントシステム（SCMS）は、著作権保護のため、各種のオーディオ機器間でデジタル録音ができるのは一世代だけに制限した規定です。

・CD（コンパクトディスク）、DAT(デジタルオーディオテープ)、MD（ミニディスク）ソフトからCD-R/RWへデジタル録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したデジタル録音媒体は、他のデジタル録音媒体へデジタル信号のまま録音することはできません。



・アナログレコードやFM放送などを、本機で録音したCD-R/RWから他のデジタル録音媒体へデジタル信号のまま一度だけ録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したものから、他のデジタル録音媒体（MD、CD-R、CD-RW）へデジタル信号のまま録音することはできません。

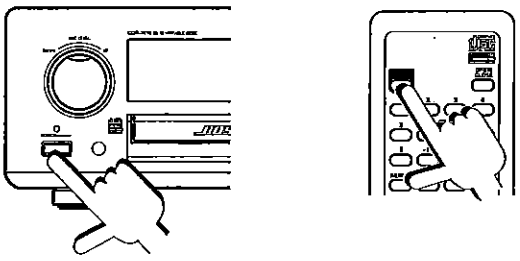


CDを簡単にコピーするには

本機とCDプレーヤーを光デジタルケーブルで接続しておいてください(5ページ参照)。

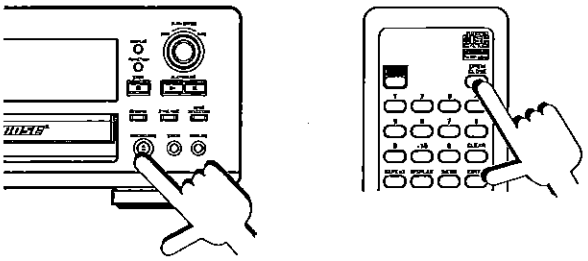
1. 電源を入れます。

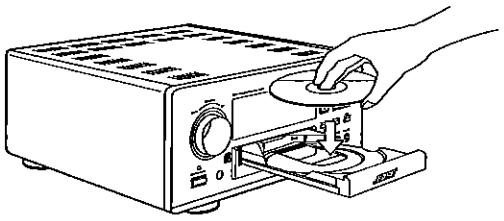
POWER/STANDBY(パワースタンバイ)キーを押すとスタンバイインジケーターが消灯し、電源が入ります。



2. 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットします。

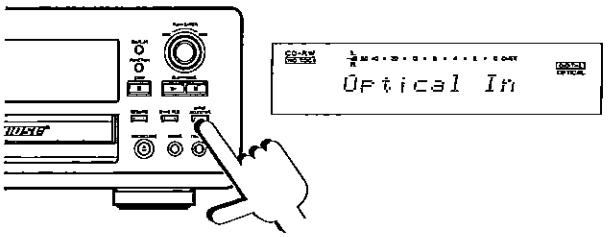
OPEN/CLOSE(▲)キーを押すとCDトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてからOPEN/CLOSE(▲)キーを押してトレーを閉めてください。





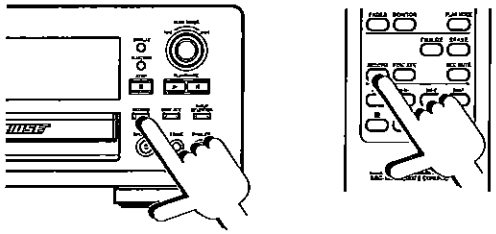
3. 外部のCDプレーヤーにCDをセットして再生の準備をします。

4. INPUT SELECTORキーを押してOptical Inを選びます。

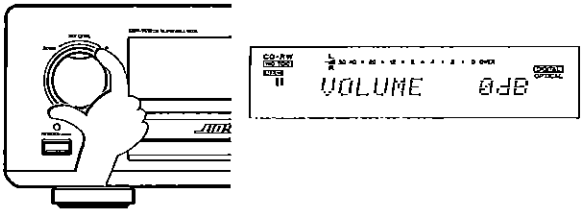


5. RECORDキーを押します。

録音待機状態になり REC と"II"が点灯します。



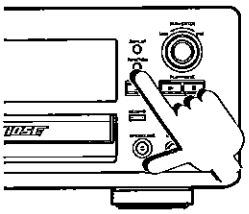
6. REC LEVELを回して録音レベルを0dBに設定します。



CDを簡単にコピーするには(つづき)

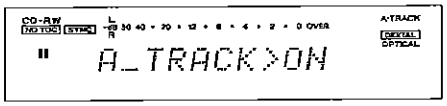
7. FUNCTIONキーを押して設定を確認します。

FUNCTIONキーを押すたびに設定項目が変わります。



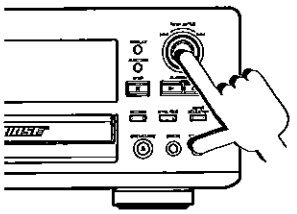
①オートトラックをオンにします。

FUNCTIONキーを押して "A-TRACK>ON" を確認します。もしオートトラックがOFF(オフ)になっていたら、ジョグダイヤルを回してオンにしてください。



②サウンドレベルを−72dBに設定します。

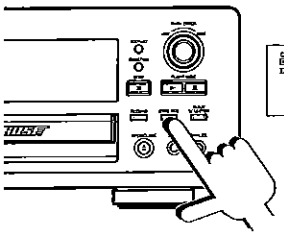
FUNCTIONキーを押して "S_LVL" を選び、ジョグダイヤルを⏮の方向に回して "−72dB" にしてください。

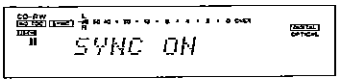


③ ①〜②の設定が終わったら、ジョグダイヤルを押してください。

8. SYNC RECキーを押します。

シンクロ録音モードになり SYNC が点灯します。





9. CDプレーヤーでCDを再生して、シンクロ録音を始めます。

・CDの再生が始まると本機は自動的に録音を始めます。

・CDの再生が終わり、無音状態が5秒以上続くと、本機は録音待機状態になります。STOP(■)キーを押して録音を終了してください。

"PMA Writing"が表示されているときは

STOP(■)キーを押すと "PMA Writing" が表示されます。表示中はキー操作を受け付けません。録音した内容をディスクに記録していますので、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。
(PMA : Program Memory Area)

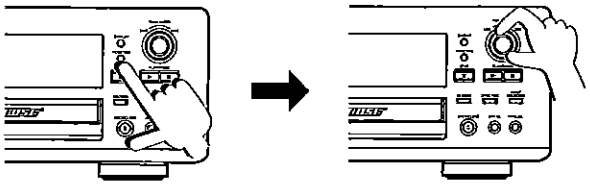
・録音が終わったらCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります(30ページ参照)。

録音のための設定

録音するときの設定を必要に応じて変更することができます。メモリーバックアップ機能がありますので設定した内容は、コンセントから電源プラグを抜いて放置しても半永久的に保持されます。

共通操作

FUNCTIONキーを押すたびに項目が変わります。FUNCTIONキーで変更したい項目を選んだら、ジョグダイヤルを回して変更してください。設定が終わったら、ジョグダイヤルまたはFUNCTIONキーを押して終了してください。



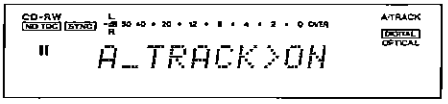
A_TRACK(オートトラック)
↓
S_LVL(サウンドレベル)
↓
FADE IN(フェードイン)
↓
FADE OUT(フェードアウト)
↓
SLEEP(スリープタイマー)
↓
通常の表示

・再びFUNCTIONキーで設定を行うときは、前回設定された項目が最初に表示されます。通常の表示は全ての項目を一順したあとに表示されます。
※電源を切ると"A_TRACK"から表示されます。

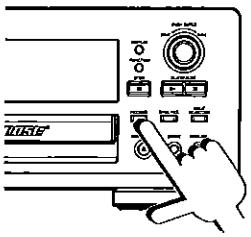
・スリープタイマーの設定方法については33ページをご覧ください。

◆A_TRACK(オートトラック)◆

設定のしかた:同ページ共通操作



オートトラックをオンにすると、録音中に自動的に曲番を付けることができます。デジタル信号で曲の変わり目を検出した場合や、入力信号が2秒以上続けて無音状態(サウンドレベルで設定したレベル以下)になったあとに次の曲が始まった場合、自動的に曲番を更新します。オートトラックがオンのときは、表示部の右上に"A・TRACK"が表示されます。



・オートトラックがオンのときでも録音中にRECORDキーを押すと曲の途中に曲番を追加することができます。

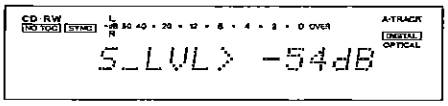
・デジタル接続で一曲をリピート再生して録音すると、曲番が正しく付かないことがあります。

オートトラックがオフのとき、曲番をつけるには

オートトラックがオフのときは、録音中、曲番を付けたいところでRECORDキーを押して曲番を付けてください。

◆S_LVL(サウンドレベル)◆

設定のしかた:20ページ共通操作



オートトラックで曲番を付けるときや、シンクロ録音するときに「無音状態」として検出するための音のレベルを変更することができます。この取扱説明書では、録音するソースのレベルがサウンドレベルで設定した値より低い状態のことを、無音状態と呼びます。

・選択できる数値は、−24、−30、−36、−42、−48、−54、−60、−66、−72dBです。初期値は−54dBです。

シンクロ録音がうまく働かない場合

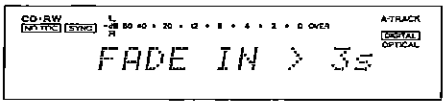
アナログ入力など雑音のあるソースをシンクロ録音するときに、サウンドレベルをその雑音より下に設定してしまうとシンクロ録音できなかったり、ソースを再生していないのに録音を開始してしまうことがあります。その場合はサウンドレベルを高くしてください。

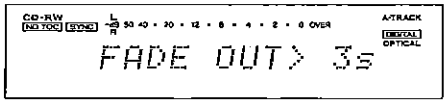
曲の頭が欠ける場合

小さな音から始まる曲をシンクロ録音するときに曲の頭が欠けてしまう場合は、サウンドレベルを低くしてください。CDからデジタル入力で録音するときなど雑音がない場合は、サウンドレベルを低く設定することができます。特にアナログ入力で、シンクロ録音機能やオートトラックを使って録音するときは、サウンドレベルの設定値にご注意ください。

◆FADE IN/FADE OUT (フェードイン/フェードアウト)◆

設定のしかた:20ページ共通操作





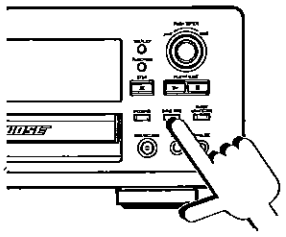
フェードイン/フェードアウトを使って録音するときのフェード時間を変更することができます。FUNCTIONキーで"FADE IN"または"FADE OUT"を選び、ジョグダイヤルで変更してください。設定範囲は1〜24秒です。初期値は3秒です。

・フェードイン/フェードアウトを使って録音する方法は22ページをご覧下さい。

録音するとき便利な機能

◆シンクロ録音◆

録音したいソースの再生が始まると自動的に録音を開始させることができます。



録音レベルを調節したあとに録音待機状態でSYNC RECキーを押すとシンクロ録音待機状態になり[SYNC]が点灯します。録音するソースを再生し、1秒以上の無音状態(サウンドレベルで設定した値よりも低い状態)のあとに曲が始まった場合、またはデジタル入力で曲の最初の音を検出した場合にシンクロ録音を開始します。録音中に無音状態が5秒以上続くと録音待機状態になります (21ページサウンドレベル参照)。

・シンクロ録音中にRECORDキーを押して、曲番の追加ができます。

・シンクロ録音中にSYNC RECキーを押すと、通常の録音になります。また、通常の録音中にSYNC RECキーを押すと、そこからシンクロ録音になります。

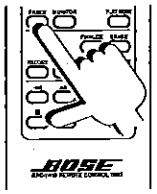
・シンクロ録音待機中に本機のPLAY(▶)キーまたはPAUSE(⏸)キーを押して録音を開始した場合は、シンクロ録音は解除されます。

・シンクロ録音中にPAUSE(⏸)キーやFADERキーを押して録音を一時停止すると、シンクロ録音は解除されます。

・録音するソースの再生が終わると、本機は録音待機状態になります。STOP(■)キーを押して録音を終了してください。

◆フェードイン／フェードアウト◆

小さな音から徐々に通常の音量に(フェードイン)しながら録音を開始したり、通常の音量から徐々に小さな音量に(フェードアウト)しながら録音を一時停止させることができます。



録音レベルを調節したあとに、録音待機状態でリモコンのFADERキーを押すと、フェードインしながら録音を始めます。FADERキーを押すのと同時に、録音するソースの再生を始めてください。

また、録音中にFADERキーを押すと、フェードアウトしながら録音待機状態になります。

・フェードイン中にFADERキーを押すと、そこからフェードアウトして録音が一時停止状態になります。

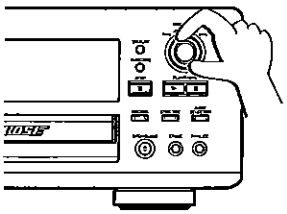
・フェードアウト中にFADERキーを押すとそこからフェードインして録音が続行されます。

・フェードイン／フェードアウトの時間は変更できます(21ページ参照)。

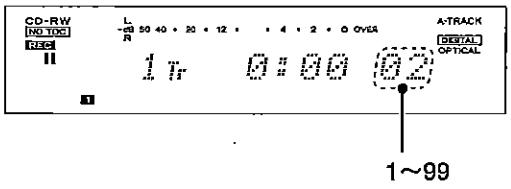
録音するとき便利な機能(つづき)

◆曲数を指定して録音するには◆

指定した曲数を録音すると自動的に録音を終了することができます。



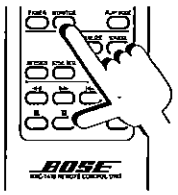
録音待機中または録音中にジョグダイヤルを ▶▶| の方向に回すと録音する曲数が表示されます。



・合計99曲まで指定できます。
・曲数を指定してないときは、何も表示されません。

◆モニター機能◆

録音可能なディスクを入れてRECポーズ状態にしなくても入力されている信号をチェックすることができます。



停止中にMONITORキーを押すと、背面のデジタルあるいはアナログ入力端子から入力されているソースのモニターをすることができます。モニターしている信号は、背面の出力端子から出力されていますので、この出力信号にアンプとスピーカーを接続すれば、そのソースを再生することができます。

※モニターを終了するときはSTOP(■)キーを押してください。

サンプリングレートコンバーター

一般のデジタルオーディオには、次の3種類のサンプリング周波数が使われています。

48kHz　:DATの標準モード、
　　衛星放送のBモードなど。
44.1kHz:DATの標準モード、CD、MDなど。
32kHz　:DATの標準および長時間モード、
　　衛星放送のAモードなど。

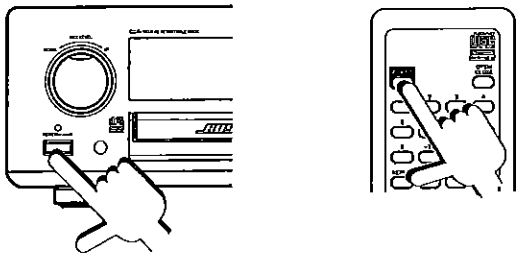
CS/BS放送やDATなど、CDと異なるサンプリング周波数（FS）のソースや、ピッチコントロールのかかったデジタル信号が入力された場合、本機はそれぞれのサンプリング周波数を44.1kHzに自動変換して録音します。またCDやMDなど、44.1kHzのソースを録音するときは、サンプリングレートコンバーターを使わずに録音します。これにより、サンプリング周波数が32kHz～48kHzのソースを、切り替え操作なしに高音質なデジタル信号のまま録音することができます。

録音

※CDからコピーするには18ページの「CDを簡単にコピーするには」を参照してください。

1. 電源を入れます。

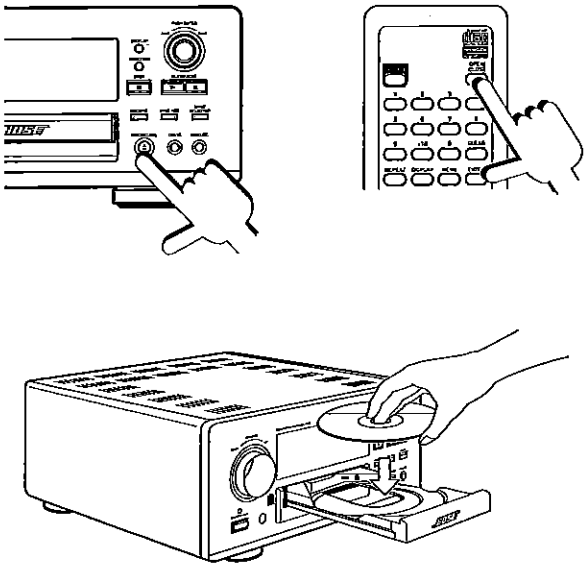
POWER/STANDBY(パワースタンバイ)キーを押すとスタンバイインジケーターが消灯し、電源が入ります。



2. 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットします。

OPEN/CLOSE(▲)キーを押すとCDトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてからOPEN/CLOSE(▲)キーを押してトレーを閉めてください。

※ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音するときはアンファイナライズする必要があります(31ページ参照)。



3. INPUT SELECTORキーを押して録音するソースを選びます。

INPUT SELECTORキーを押すたびに以下のように変わります。

↓

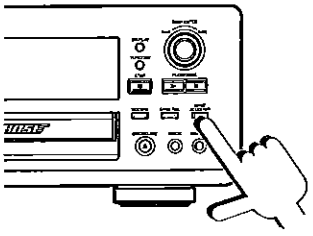
Optical In(デジタル入力):
光デジタルケーブルでDIGITAL IN(OPTICAL)に接続した機器から録音するとき

↓

Opt+Analog(ミックス入力):
DIGITAL IN(OPTICAL)に接続した機器とLINE INにオーディオピンケーブルで接続した機器からミックス録音するとき

↓

Analog In(アナログ入力):
LINE INにオーディオピンケーブルで接続した機器から録音するとき



ミックス録音について

Opt+Analog(ミックス入力)を選ぶとデジタル入力の音量は、アナログ入力に対して自動的に12dB小さくなります。

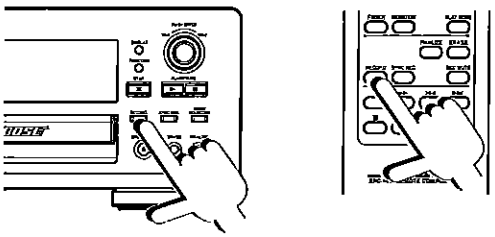
アナログ入力の音が大きくなりますのでメインのソースをアナログ入力にしてBGMをデジタル入力にするなど、目的に応じて入力をお選びください。

録　音(つづき)

4. RECORDキーを押します。

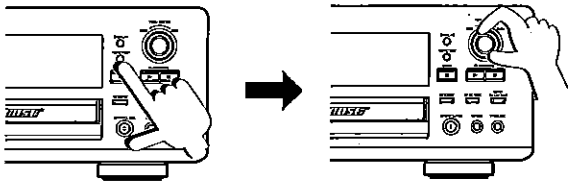
録音待機状態になり REC と"⏸"が点灯します。

●曲数を指定して録音する(23ページ参照)ときは、ここで行います。



5. 曲番の付け方を選びます(オートトラック)。

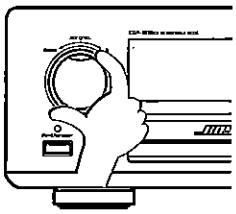
FUNCTIONキーとジョグダイヤルで曲番の付け方を選んでください(20ページオートトラック参照)。

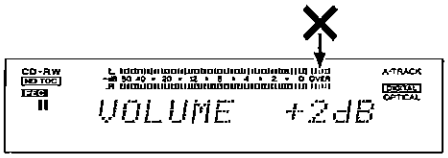


6. 必要に応じて録音レベルを調節します。

調節する必要がない場合は7に進んでください。

録音するソースの音を出し、REC LEVELを回して音が最も大きいときにピークレベルメーターの"OVER"が点灯しないように調節してください。"OVER"が点灯すると音が歪んでしまいます。





※CDなどを録音する場合、通常は0dBにしてください。

・録音レベル(VOLUME)は、録音中、録音待機中およびモニター中にしか表示されません。

・デジタル入力用(Optical In)とアナログ入力用(Analog InおよびOpt+Analog)の録音レベルを別々に設定できます。INPUT SELECTORキーで入力するソースを選んでから設定してください。

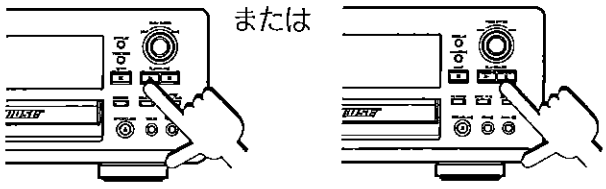
※Opt+Analogの場合は、Analog(アナログ入力)の録音レベルだけ調節できます。デジタル入力の録音レベルは、アナログ録音のレベルに対して自動的に12dB小さく設定されています。

シンクロ録音を行うには

オートトラックはONに、サウンドレベルは録音したいソースに合わせて調整する必要があります(20・21ページ参照)。設定を終えたらSYNC RECキーを押します。録音したいソースの再生を始めると自動的に録音がスタートします(22ページ参照)。

7. 録音を始めます。

本機のPLAY(▶)キーまたはPAUSE(⏸)キーを押してから録音するソースを再生し、録音を始めてください。



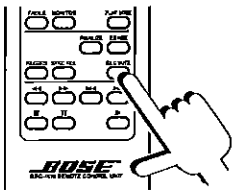
・録音中にRECORDキーを押すとオートトラックのオン、オフに関係なく、曲番を付けることができます。

録　音(つづき)

◆無音録音状態にするには◆

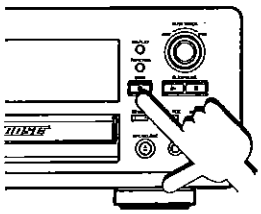
録音中にリモコンのREC MUTEキーを押すと無音録音状態になり、約4秒後に一時停止(録音待機)状態になります。PLAY(▶)キーまたはPAUSE(⏸)キーを押すと再び録音が始まります。

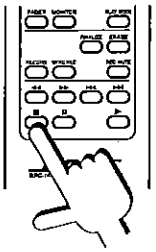
・一時停止するたびに曲番が付きます。



◆録音を止めるには◆

STOP(■)キーを押すと"PMA Writing"が表示されたあと録音が停止します。





"PMA Writing"が表示されているときは

表示中はキー操作を受け付けません。録音した内容をディスクに記録していますので、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

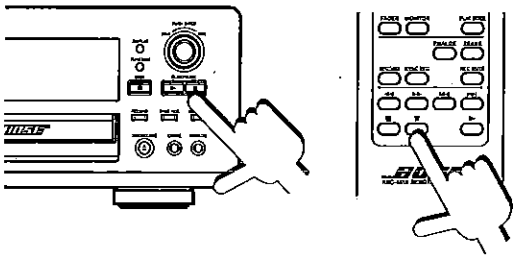
(PMA : Program Memory Area)

録　音(つづき)

◆録音を一時停止するには◆

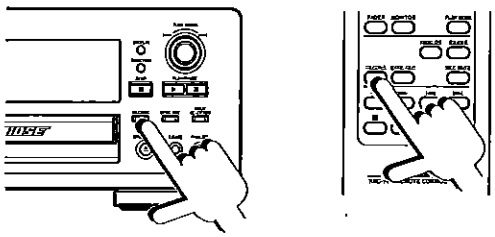
PAUSE (❚❚) キーを押すと一時停止状態になり“ ❚❚ ”が点灯します。PAUSE (❚❚) キーまたはPLAY (▶) キーを押すと再び録音が始まります。

・一時停止するたびに曲番が付きます。



◆録音中に曲番を付けるには◆

録音中にRECORDキーを押すと、曲番を付けることができます。



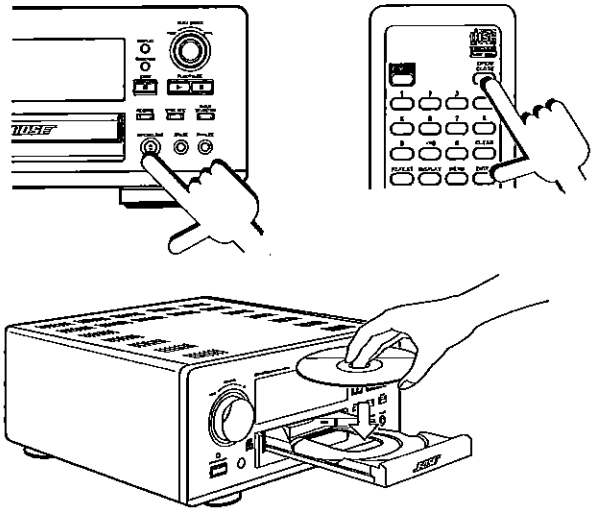
消去(CD-RWのみ)

曲を消去するには

CD-RWの「全ての曲」または「指定した曲から最後の曲まで」を消去することができます。ただし途中に収録された曲だけを消去することはできません。

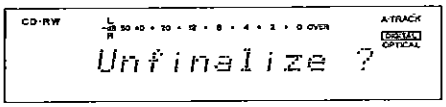
1. 録音済みのCD-RWをセットします。

電源がオンの状態でOPEN/CLOSE(▲)キーを押すとCDトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてからOPEN/CLOSE(▲)キーを押してトレーを閉めてください。



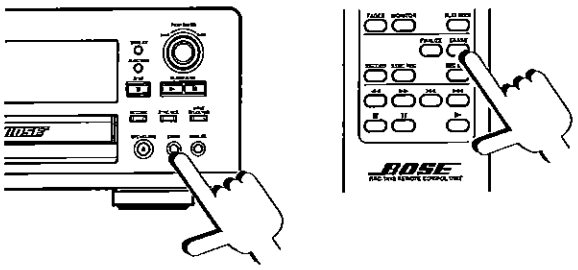
※ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音するときはアンファイナライズする必要があります。

本機では、ファイナライズ済みのCD-RWの曲を消去しようとするとアンファイナライズするかどうか聞いてきます。消去を続けるためには、エンターキーを押してアンファイナライズを実行したのち、再びERASEキーを押して曲の消去を行ってください。



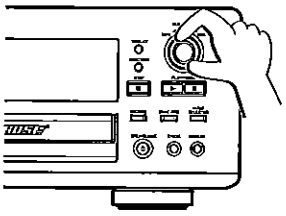
2. ERASEキーを押します。

※ERASE キーは停止中にしか使えません。



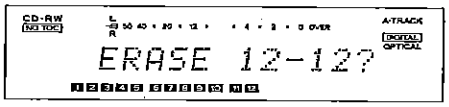
消去(CD-RWのみ)(つづき)

3. ジョグダイヤルでアンファイナライズ、消去または消去を開始する曲番を選択します。



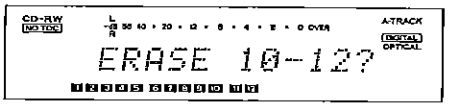
●例えば12曲収録されているCD-RWの場合

・最後の曲だけを消去する場合
(例：曲番12)



12曲録音されている場合

・途中から最後の曲まで消去する場合
(例：曲番10～12)



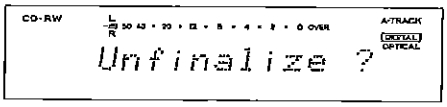
・全ての曲を消去する場合

・ディスクの内容を全て消去する場合
(ディスクリフレッシュ)
録音時のエラーを起こすようになったディスクをディスクリフレッシュすると、エラーが発生しなくなることがあります。

※この作業には時間がかかりますので、通常の全曲消去には"ERASE DISC"をおすすめします。

※ディスクリフレッシュを始めると途中で止める事はできません。

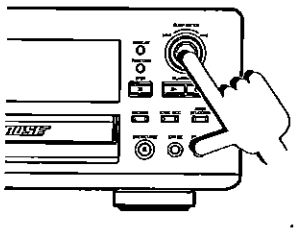
・アンファイナライズ
ファイナライズしたCD-RW(録音したデータの情報）を消去してCD-RWに追加録音したり、曲を消去できるようにします(31ページ参照)。



※消去作業を中止したい場合はSTOPキー(■)を押してください。

4. ジョグダイヤルを押します。

消去が始まります。所要時間が表示部に表示されます。消去が完了すると"Complete"と表示して、停止します。



・消去中はどのキーを押しても機能しません。

・消去中は電源コードを抜かないでください。

ファイナライズとアンファイナライズ

◆ファイナライズ◆

TOC(録音したデータの情報)をディスクに記録することをファイナライズといいます。

CD-Rをファイナライズすると、通常のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズされたCD-Rにはそれ以上録音することができません。なお、ファイナライズされたCD-Rをセットすると本機はCDとして認識します。

CD-RWをファイナライズすると、CD-RW対応のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときはアンファイナライズしてください(次ページ)。

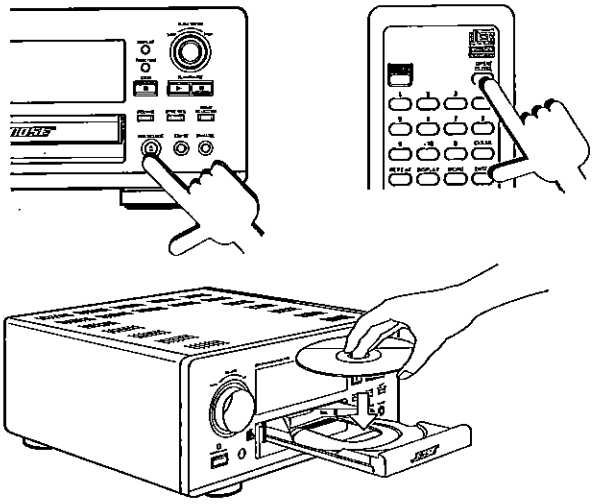
⚠ 注意

CD-Rはファイナライズしなければ一般のCDプレーヤーで再生する事はできません。しかし、ファイナライズしたCD-Rであっても、CDプレーヤーで再生できるものとできないものが生じる場合があります。また、CD-RWはファイナライズしても、CD-RW対応のCDプレーヤーでしか再生はできません。

1. CD-RまたはCD-RWをセットします。

電源がオンの状態でOPEN/CLOSE(▲)キーを押すとCDトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてからOPEN/CLOSE(▲)キーを押してトレーを閉めてください。

※ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音するときはアンファイナライズする必要があります(31ページ参照)。

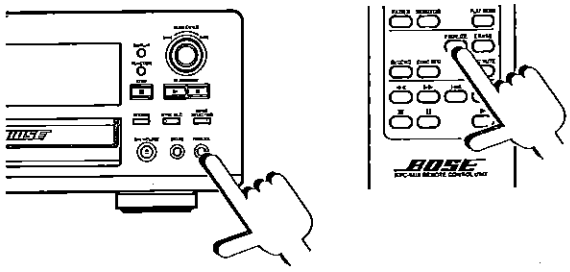


2. FINALIZEキーを押します。

FINALIZEキーを押すとファイナライズするか聞いてきます。

※FINALIZEキーは停止中にしか使えません。

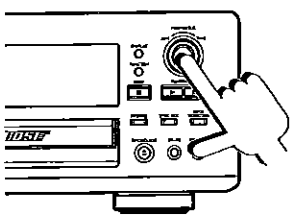
・ファイナライズ作業を中止したい場合はSTOP(■)キーを押してください。



3. ジョグダイヤルキーを押します。

ファイナライズが始まります。"REC"と"TOC"が点滅し、所要時間が表示部に表示されます。ファイナライズが完了すると"Complete"と表示して停止します。

・ファイナライズ中は電源コードを抜かないでください。



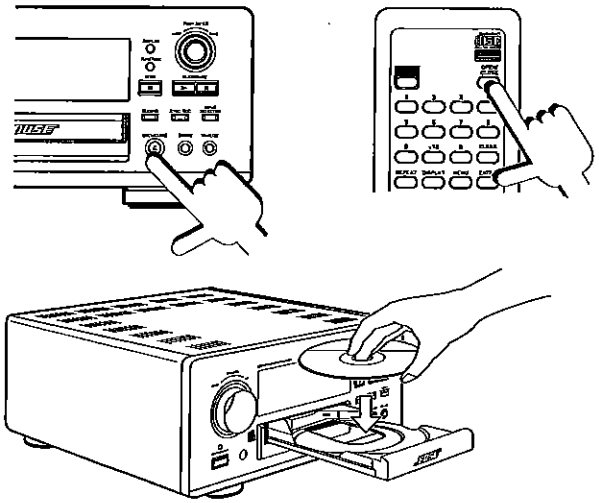
ファイナライズとアンファイナライズ(つづき)

◆アンファイナライズ◆

ファイナライズしたCD-RWのTOC(録音したデータの情報)を消去してCD-RWに追加録音したり、曲を消去できるようにすることをアンファイナライズといいます。

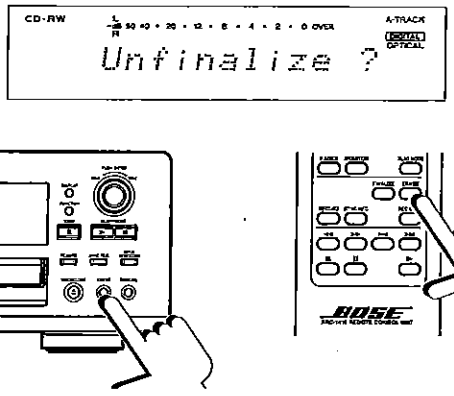
1. ファイナライズ済みのCD-RWをセットします。

電源がオンの状態で、OPEN/CLOSE(▲)キーを押すとCDトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてからOPEN/CLOSE(▲)キーを押してトレーを閉めてください。

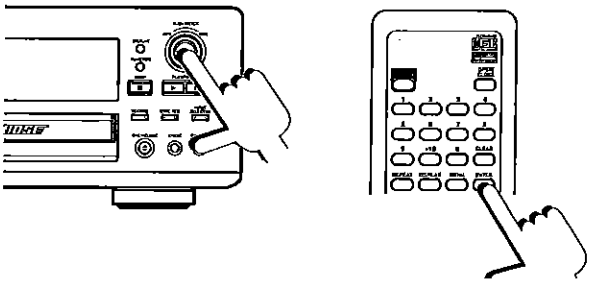


2. 停止中にERASEキーを押します。

ERASEキーを押すと、アンファイナライズするか聞いてきます。

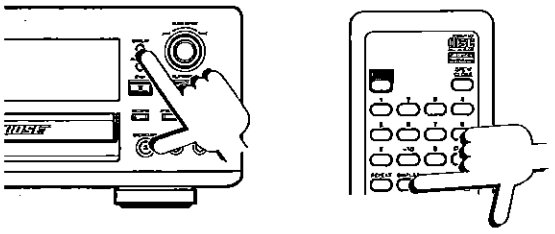


3. リモコンのENTERキーまたは本体のジョグダイヤルを押して、アンファイナライズを実行します。



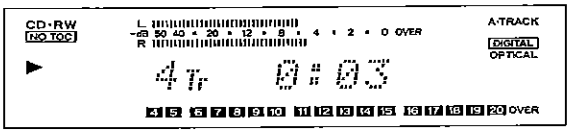
表示部の表示

DISPLAYキーを押すと、表示部の表示が変わります。

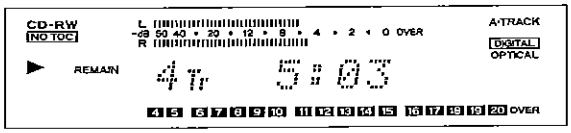


再生中

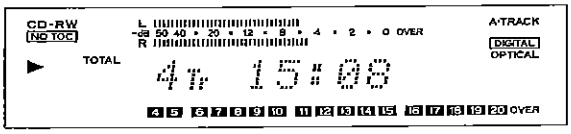
再生中の曲の経過時間



再生中の曲の残り再生時間



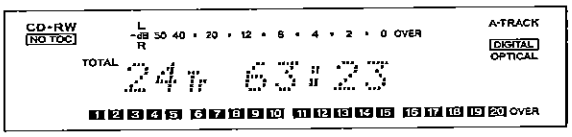
再生中のディスクの総経過時間



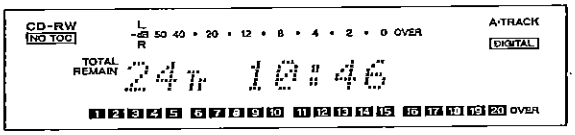
再生中のディスクの残り時間

停止中

総曲数および総再生時間

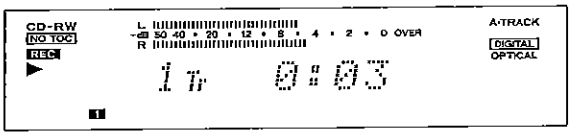


録音可能時間（CD-RまたはCD-RWの場合）

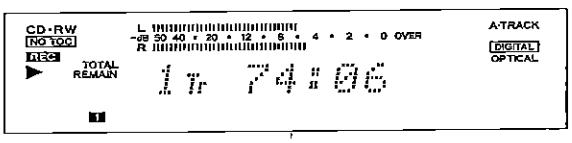


録音中

録音中の曲の録音経過時間



録音可能時間

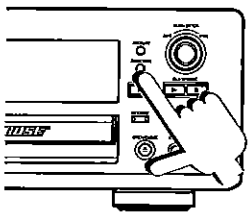


スリープタイマー

設定した時間になると自動的に電源が切れてスタンバイ状態になる機能です。

※ボーズ社CD・チューナーアンプPLS-1410と組み合わせてご使用いただくと、PLS-1410のスリープ機能でシステム全体の電源を切ることができます。本機の機能よりもPLS-1410のスリープ機能をご使用になることをおすすめします。

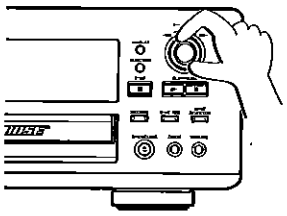
1. 電源がオンの状態でFUNCTIONキーを繰り返し押して"SLEEP>OFF"を選びます。



2. ジョグダイヤルを回してスリープタイムを設定します。

15分刻みで90分まで設定できます。

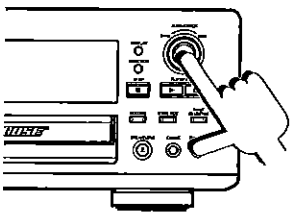
OFF、15、30、45、60、75、90分



m : minits

3. ジョグダイヤルを押します。

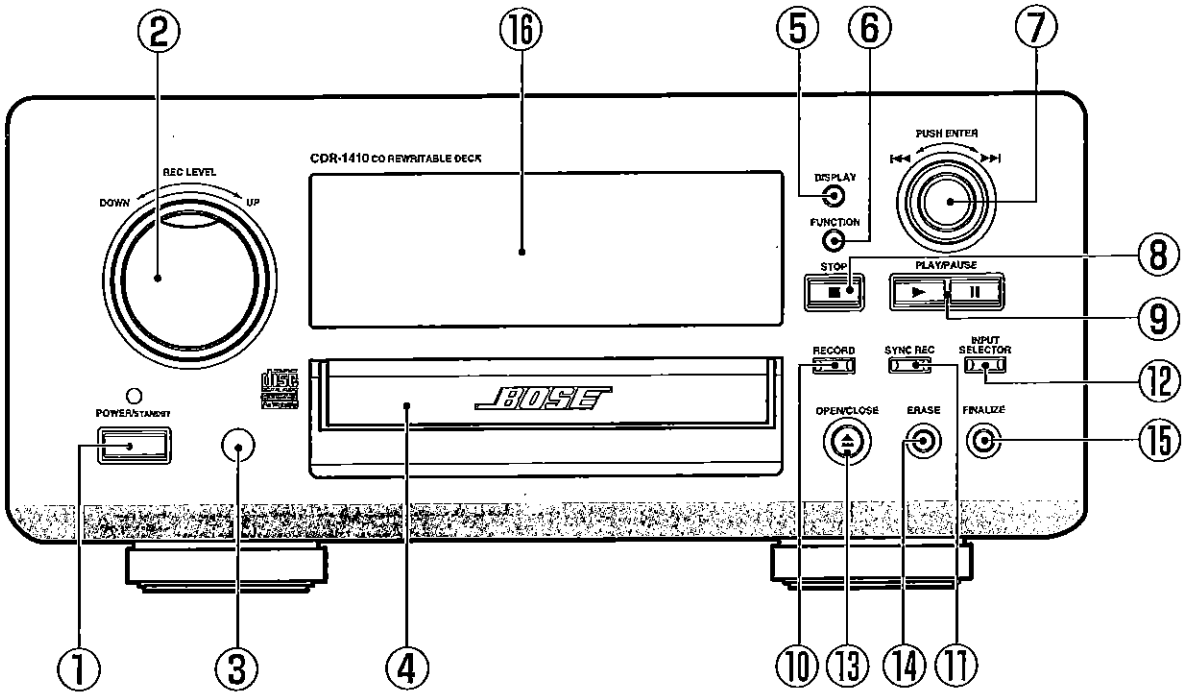
スリープタイマーを設定すると、残りのスリープ時間が1分毎に約2秒間表示されます。または、FUNCTIONキーを押して"SLEEP"を選ぶと、残りのスリープ時間が表示されます。



※録音中にスリープタイムが0になった場合、録音を途中で終了させて電源が切れます。

・ファイナライズまたは消去中にスリープタイムが0になった場合、スリープタイマーは機能しません。

各部の名称および機能(前面)



① POWER/STANDBY(電源)キーとスタンバイインジケーター

1回押すと電源が入り、インジケーターが消灯します。もう1回押すと電源が切れてインジケーターが点灯します。

② REC LEVEL(レックレベル/録音音量)調整つまみ

録音レベルを調整するときにこのつまみを回します。

③ リモコン受光部

リモコンを使用するときはこの窓にリモコンを向けてください。

④ CD(コンパクトディスク)トレー

CD(CD、CD-R/RW)をレーベル面を上にしてこのトレーの上に置きます。CDトレーが出ている状態のとき、CDトレーを軽く押し込むと自動的に閉まります。

⑤ DISPLAY(ディスプレー/表示)キー

表示部の表示を切り替えるときに使用します。

- **再生中にこのキーを押すと**
  曲の経過時間→曲の残り再生時間→ディスクの総経過時間→ディスクの残り時間の順に表示します。
- **停止中にこのキーを押すと**
  総曲数および総再生時間→録音可能時間(CD-R/RWの場合)を表示します。
- **録音中にこのキーを押すと**
  録音中の曲の録音経過時間→録音可能時間を表示します。

各部の名称および機能(前面)(つづき)

⑥ FUNCTION(ファンクション/機能)キー

このキーを押して設定項目を選びます。
このキーを押すたびに

A_TRACK (オートトラック)
↓
S_LVL (サウンドレベル)
↓
FADE IN (フェードイン)
↓
FADE OUT (フェードアウト)
↓
SLEEP (スリープタイマー)
↓
通常の表示 ←

と変わります(20ページ参照)。

⑦ ジョグダイヤル/ENTER

曲の選択、スリープタイマー時間、いろいろな機能の設定やON/OFFを選ぶときに使用します。

⑧ STOP(ストップ/停止)キー

CDの再生を停止したり、録音を停止するときに使用します。

⑨ PLAY/PAUSE(プレイ/ポーズ)キー

再生、録音を開始したり、一時停止をするときに使用します。

⑩ RECORD(レコード)キー

録音するときや曲番を追加するときに押します。

⑪ SYNC REC(シンクレック)キー

外部のCDの曲にシンクロ(同期)させて録音できます。

⑫ INPUT SELECTOR(インプットセレクター/入力切替)キー

このキーを押すと

Optical In (デジタル入力)
↓
Opt+Analog (ミックス入力)
↓
Analog In (アナログ入力) ←

の順に変わります。

⑬ OPEN/CLOSE(オープン/クローズ)キー

CDトレーの出し入れをします。

⑭ ERASE(イレース)キー

CD-RWのアンファイナライズ、曲の消去をするときに押します。

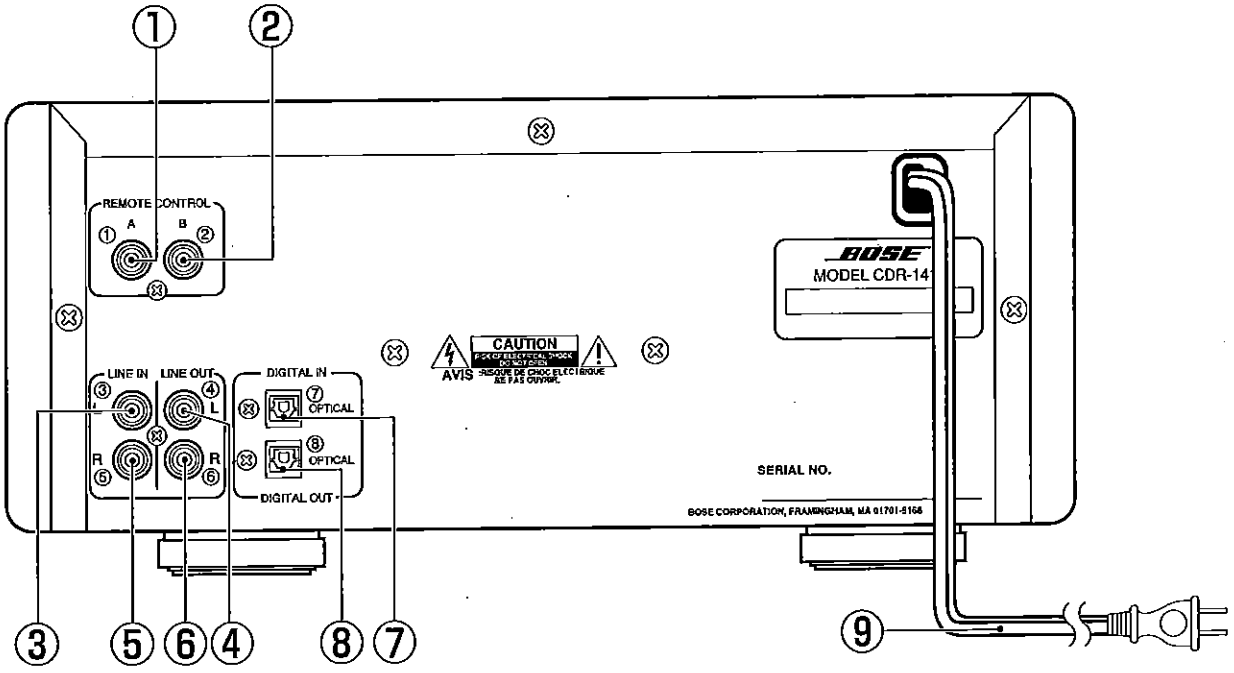
⑮ FINALIZE(ファイナライズ)キー

CD-R/RWを通常のCDプレーヤーで再生できるようにする(ファイナライズ)ときに押します。
※CD-RWはファイナライズしてもCD-RW対応のCDプレーヤーでしか再生できません。

⑯ 表示部

時間やCDの収録時間などの情報を表示します。

各部の名称および機能(背面)



① ② REMOTE CONTROL (リモートコントロール端子)

ボーズ社CD・チューナーアンプPLS-1410のリモコン端子(REMOTE CONTROL AまたはB)をリモートコントロールコードで接続すると、タイマー再生、CDシンクロ録音機能などのシステム機能が使えます。

③ ④ ⑤ ⑥LINE IN/OUT (音声入力端子)

アナログで録音/再生するときに使用します。アンプの入力端子と接続してください。

※アンプ側にCD-R用の入力端子がない場合は、MD、TAPE用の端子に接続してください。

⑦ ⑧DIGITAL IN/OUT (デジタル入出力端子)

光デジタルケーブルを使って、CDプレーヤー、MDデッキ、CS/BSチューナー、D/Aコンバーターなどのデジタル入出力端子(DIGITAL IN/OUT)と接続します。光デジタルケーブルの先の形状はEIAJ角型のものをご使用ください。

※光デジタルケーブルを接続する際は、接続端子のキャップをはずしてください。使用しないときはキャップをつけておいてください。

⑨ 電源コード

家庭用電源コンセントに(AC100V 50/60Hz)接続してください。

※交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。また、電源の抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。

メッセージ一覧

エラーメッセージ	
エラーメッセージが表示されたときはSTOP(■)キーを押してから原因を取り除いてください。	
Data Disc !!	PC用のデータディスクではなく、"DIGITAL AUDIO"と表記されたディスクを使用してください。
D-IN UNLOCK !	CDなどのデジタル機器のデジタル出力と本機のデジタル入力を接続してください。または、接続したデジタル機器の電源を入れてください。
Erase Error !	ディスクに異常等があり、消去できません。
Disc Full !!	ディスクの曲数(99曲)または時間(74または80分)が一杯になり、追記できません。記録可能なディスクと交換してください。また、CD-RWの場合は、消去して追記することも可能です。
SCMS !!	シリアルコピーマネージメントシステムで制限されているため、デジタル録音はできません。アナログ入力で録音してください。
No OPC Area !	OPCエリアがいっぱいで録音できません。これ以上の録音はできませんので、ファイナライズして再生専用CDとしてご使用ください。CD-RWの時は、この表示が出たあと、OPCエリアをクリアしますので("OPC Area CLR"を表示)、さらに記録できます。
PGM Full !	すでに25曲プログラムされています。
Disc Error !	ディスクに何らかの障害があります。ディスクを交換してください。

エラーメッセージ	
エラーメッセージが表示されたときはSTOP(■)キーを押してから原因を取り除いてください。	
Rec Error !	記録中にディスクまたは本機に異常(振動なども含まれます)があり、正常に記録できませんでした。もう一度録音をやりなおすか、または、ディスクを交換して録音してみて下さい。 それでもエラーが出るようであれば、ボーズ株式会社修理担当部門(TEL 03-5489-1056)にお問い合わせください。
System Err ! Tray Error ! Drive Error !	本機内部に異常が発生しました。電源コードを抜いて、再度電源を入れなおして動作させてください。それでも直らない場合は、ボーズ株式会社修理担当部門(TEL 03-5489-1056)にお問い合わせください。

通常メッセージ	
TOC Reading	TOC情報を読み取り中です。 (TOC:Table Of Contents)
Now OPC	最適な状態で録音するために、セットされているディスクの特性に合わせてキャリブレーションしています。 (OPC:Optimum Power Control)
PMA Writing	録音した内容をディスクに記録中です。 (PMA:Program Memory Area)
Complete	消去またはファイナライズが完了しました。
OPC Area CLR	OPCエリアをクリア中です。
REPAIR	ディスク情報を修復中です。

故障かな？と思ったら

問　題	対　応
電源が入らない	・電源プラグの差し込みが不完全ではありませんか？
音が出ない	・システムとの接続を確認してください。 ・アンプの操作を確認してください。
リモコンで操作できない	・電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。 ・本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から4メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。
"Disc Error !" が表示される	・ディスクが損傷しています。ディスクを入れ直しても"Disc Error !"が表示される場合は、ディスクを交換してください。
再生できない	・結露している場合は、ディスクを取り出して数時間放置してください。 ・何も録音されていないディスクが入っている場合は、録音されているディスクを入れてください。 ・ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。 ・ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
シャッフル再生を解除できない	・リモコンのPLAY MODEキーを2回押して通常の再生モードにしてください。また、電源プラグを抜くと解除されます。
音飛びがする	・震動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。 ・ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
録音できない	・音楽用のCD-R/CD-RWを使ってください。 ・ファイナライズ済みのCD-Rには録音できません。ディスクを交換してください。 ・CD-Rの録音残り時間が足りない場合は、ディスクを交換してください。 ・ファイナライズ済みのCD-RWには録音できません。 アンファイナライズするか、ディスクを交換してください。 ・録音レベルを調節してください。 ・アンプの操作を確認してください。 ・録音できないディスクが入った状態でRECORDキーを押すと、入力ソースのモニター状態になります。STOP（■）キーを押してモニターを解除し、ディスクを交換してください。
雑音がする	・テレビなど強い磁気を帯びたものからは十分離して設置してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦コンセントから電源プラグを抜き、約1分後に接続し、もう一度操作をしてみてください。

お手入れについて

・トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ 注意

お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

仕　様

記録メディア	音楽用CD-R/CD-RW
入力サンプリング周波数	32kHz～48kHz
録音サンプリング周波数	44.1kHz
周波数特性	20Hz～20kHz （再生時：±0.5dB、記録時：±1dB）
S/N比	93dB以上（再生時） 87dB以上（記録時）
ダイナミックレンジ	93dB以上（再生時） 87dB以上（記録時）
歪率	0.007%以下（再生時） 0.009%以下（記録時）
ワウ・フラッター	測定限界以下
入力端子	アナログ：ライン×1系統 デジタル：光×1系統
出力端子	アナログ：ライン×1系統 デジタル：光×1系統
ライン入力	入力インピーダンス：20kΩ 規定入力レベル：−6dBV（0.5V）
ライン出力	出力インピーダンス：1kΩ 規定出力レベル：−6dBV（0.5V） 最大出力レベル：＋6dBV（2.0V）
電源	AC100V、50-60Hz
消費電力	25W
サイズ	299（W）×131（H）×303（D）mm
重量	6.3kg
動作保証温度	5℃～35℃
付属品	リモコン×1個 チェック用リモコン用電池（単3）×2本 オーディオピンケーブル×2本 リモートコントロールケーブル×1本 光デジタルケーブル×1本

故障の場合のお問い合わせ先

製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社　インフォメーションセンター　☎ 03-5489-0955
までご連絡ください。

2004年11月に移転になっております。
ボーズ・サービスセンター株式会社
修理部門　042-357-5250
パーツ部門　042-357-5260
〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9
唐木田センタービル

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

BOSE®
Better sound through research®
ボーズ株式会社 http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1190
01・1・F・A・1(I・M)